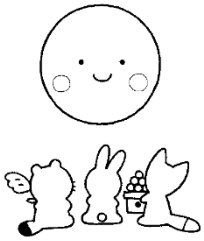
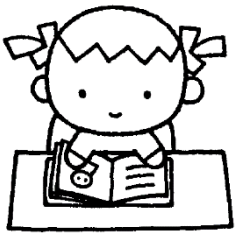


あたらしい本

第261号 2025.9.15 発行（こども版）



たくさんよんでくださいね！

「まよなかのかくれんぼ」　ケイティー・メイ・グリーン/作　石津　ちひろ/訳

ほるぷ出版（えほん　3～5歳）

ぽつんと佇むお屋敷の一番上の子ども部屋、壁に飾った絵のなかで、子どもたちが暮らしてる。ふたごが真っ先に飛び出して、姿を消してしまったみたい！一体どこにいるのかな？みんなで探しにいくと・・・。

「オオカミのひみつのひみつ」　飯野　和好/絵　内田　麟太郎/文

ひかりのくに（えほん　幼児向き）

満月の夜どこからともなく集まった、一匹オオカミたち。アライグマのばあさまだけが知っている、オオカミたちも知らない秘密とは？百匹以上のオオカミが愛おしくなる絵本。

「ふしぎなはごろも」　蔡　皋/作・絵　石田　稔/訳　徳間書店

（えほん　3～5歳、小初向き）

絵の中から出てきた娘アツァイと夫婦になった、正直ではたらき者のアツォワン。ところが、よくばりな皇帝が、アツァイのうつくしさとふしぎな力に目をつけて・・・。中国を代表する絵本作家がミャオ族の民話をもとに描いた絵本。

「きのこってなんだろう？」　小林　路子/さく　（かがくのとも絵本）

福音館書店（えほん　3～5歳・小初向き）

いつの間にか生えていて、いつの間にか無くなっている不思議な存在、きのこ。日本の菌類画の第一人者が、ベニテングダケを例にライフサイクルを描き、その正体に迫る。様々なところで育つ、色とりどりのきのこも紹介。

「おばあのサーターアンダギー」　上條　さなえ/作　こやま　もえ/絵

さ・え・ら書房（よみもの　小中向き）

ランドセルを背負うとお腹が痛くなり、学校に通えなくなった、小学３年生のみるく。そんなみるくをあったかい気持ちにしてくれたのは、隣に引っ越してきた、おばあで・・・。不登校の小学生と沖縄のおばあの間に育まれた絆の物語。

「山の神の使い」　最上　一平/作　マメイケダ/絵　童心社（よみもの　小中向き）

春の田植え、夏のひとり旅、秋の稲刈り。東京に住む大河が、おじいちゃんとおばあちゃんのいる山形でからだいっぱいに感じる自然と、そこで暮らす家族のいとなみを、まっしょうめんから描いた物語。

「オオカミは海をめざす」　三田村　信行/作　北沢　夕芸/絵　童心社

（よみもの　小上向き）

イリヤは、ある日突然ぼくたちの前に現れ、強い印象をぼくたちに与えて消えた。ただそれだけのことにすぎなかったが、その内実は、謎と秘密と不思議な冒険に満ちていた・・・。『朝日小学生新聞』連載をもとに単行本化。

「美しくない青春」　小手鞠　るい/作　さ・え・ら書房　（よみもの　小上向き）

11歳になったその年、戦争が始まった。美しい時間、美しい言葉、愛する者たちを、戦争は容赦なく、うばっていく。それでも彼女は、心の中の「美しいもの」を守りつづけたー。ひとりの少女の尽きせぬ思いと絶望と希望を描く。

坂戸市立中央図書館　TEL281－6369

※図書館流通センター「新刊全点案内」より引用